



# 突如事故多発

## 基本に戻った安全運転を

今年に入り白根管内では、五月十八日現在で四件の死亡交通事故が発生。近年にない最悪のペースとなっています。これから夏に向かって二輪車の事故が多発する。二つも予測され、白根警察署では交通安全を強く呼びかけています。

### 最悪の事故。ペース

五月十七日の午後九時二十分ごろ、西蒲原郡味方村の広域農道の交差点で、自転車乗りと自動車の出会いがしらの交通事故が発生しました。この事故で自転車に乗っていた六十五歳の男性が死亡。白根警察署管内の今年に入ってからの死亡交通事故件数は、早くも四件の死亡交通事故が三件です。昨年一年間の管内死亡交通事故件数が三件ですから、今年は早くもそれを上回る最悪のペースとなったわけです。

### 「目」で確認していますか

五月一日に発生した三件目の死亡交通事故は、乗用車が左折時にバイクを巻き込んだ事故でした。主な原因は、乗用車の左折時の左後方安全確認。この乗用車はどこかでこのバイクを追い越しているはずなのですが、つい、いつもの慣れから、「だいたいようぶだろ」と思い込んでしまったのでしよう。

「ベテランの運転手ほど陥りやすいミス」と指摘します。いつもの車の流れが頭の中に入っているため、「目」よりも「頭」で先を読んでしまふ、というわけです。運転にある程度の慣れは必要ですが、目で見て確認するという、運転の基礎中の基礎は忘れてはいけません。基本に戻った安全運転を、ここでもう一度振り返ってみる必要があるようです。

六月には風合戦などで市内の交通量が増加し、七、八月には夏休みの時期とも重なって例年二輪車の事故が多発しています。引き続き市民総ぐるみの事故防止に努めましょう。

# 危い!!



### 合図は車の意思表示

進路変更するとき、右左折するとき、追い越しをするとき、停車するときなど、車両は必ず合図を出さなければなりません。言うまでもなく、合図を出さずにこれらの行為をすることは、直接事故につながります。合図は車両の意思表示の手段なのです。

合図を出したりする場面に、よく出会います。合図は自分のためにするものではありません。相手に自分の動きを知らせるためにするのです。また、合図を出したからといって、相手は必ず見ているとは限りません。特に、視野の狭い二輪車からは、前を行く車両の合図は、思ったよりも見にくいものです。「合図は早目に、スピードは控えめに」という標語は、常に念頭において運転したいですね。合図は車両同志のたいせつな意思表示です。相手の意思を受け止



める、ゆとりと思いやりがなければ、事故はなくなりません。交通事故は、だれもが加害者や被害者になる可能性を持っています。自分だけはいじょうぶと思っただけでも、一瞬の判断の誤りや心のすきが取り返しつかない事故を引き起こすのです。交通事故は決して人ごとではありません。



広瀬四郎次さん  
(白根中央自動車学校  
白根中央自動車学校  
白根中央自動車学校)

### 覚えていますか 運転の基本

左折するとき「あらかじめできるかぎり左に寄る」というのが、学科指導の基本です。なぜ「できるかぎり左」なのか。これがあいまいだと事故につながります。ずつと左に寄れば、二輪車が入ってくる余地がないので、事故が未然に防げるわけです。

技能指導に入りますと、それプラス「目視」を強調しています。その時わきにいない二輪車は突っ込んでくる。多くの場合は普通車の確認が足りないのと、二輪車の突っ込みが重なって事故を引き起こしています。巻き込み事故を避けるには基本通りできるかぎり左に寄ることです。軽自動車であっても大型車並みに右に膨れて左折する車があります。これは非常に危険です。

自動車学校では普通免許を取った人に原付の実技指導もします。これは二輪車の特性を身をもって覚えてもらうためです。最近道路環境が良くなつて、標識の整備なども進められていますが、事故はいっこうに減りません。要は運転者の心の問題なんです。危険を予測してこれに備える「安全マインド」を忘れないこと。危険な運転者でも無事でいられるのは、周りがみんな気を付けてくれるからなんです。



吉田一子さん  
(驚巻地区交通安全  
母の会会長)

驚巻地区交通安全母の会は、五百四十五人の会員がいます。登校時の街頭指導は全家庭にお願いし、農協の広報車を借りて年に五回呼びかけをするなど、一生懸命活動しています。

お年寄りには交通安全タスキを勧めています。先日黒埼では赤信号なのに横断しようとしてお年寄りが亡くなる事故が起きています。老人クラブなどからも、もっと交通安全に力を入れていただきたいとおもいます。しかし、家庭の中でなんと云ってもたいせつなのは、「車に気を付けて」と一声掛けてあげると、交通安全は母親から、家庭から、と言いますが、玄関を出るときに一声掛ける思いやりや愛情が、事故を未然に防ぐ基本だと思っています。

安全指導に力を入れてくださっていますので、地区の子どもの事故が比較的少なく、喜んでいきます。特に学校の前の県道は交通量が多く、心配な場所ですが、校長先生をはじめ、先生方が一日も欠かさずに校門の前で交通指導をしてくださり、ほんとうに頭が下がります。ちかちか押しボタンスの信号ができると聞きました。登下校時に事故がないのは校長先生のおかげだと思っています。今、母の会では小・中学生のかばんや自転車に付ける、いい反射材がないか検討しているところです。

世の中にこれだけ車がはんぱんぱん走っているから、制限速度を守らずにスピードを出して運転すれば、事故を起こすのは当然でしょう。先を急いで、あせりや気持ちからスピードを出すわけですから、朝、もう十分早く起きて、お父さんを早目に起こすように心がけています。ゆとりを持って、お茶を二服飲む余裕。これが大事ですね。

### 「車に気を付けて」と 一声掛けて交通安全